



仙台育英記念館

- M9.0のパワー ⇒ 被害面積の広さ
- 高さ10mを超える津波（神戸は火災）
- 職・食・住・コミュニティをセットで失う
- 多数の行方不明者3607人（12月1日現在）  
⇒ どこで震災にあったかわからない
- 原発事故
- 政治の停滞

地震による建物の  
崩壊は少なかった

## 東日本大震災の特徴

- ◆ 14日（月）電力復帰 ⇒ 電話は不通 サーバーダウン  
安否確認方法検討 ⇒ gmailアドレス取得  
2時間で50名（7.5%）の安否確認
- ◆ 15日（火）電話復旧  
電話と並行してiphone, ipad, ipod, touch+wifi  
（モバイル回線）等とgmailとの組み合わせ  
⇒ 450名（68%）確認
- ◆ 16日（水）残り36名
- ◆ 17日（木）残り19名 教職員全員
- ◆ 18日（金）残り2名（無事確認）
- ◆ 23日（火）卒業生の安否確認開始
- ◆ 25日（金）卒業生を含む1056名の安否確認完了

**先ず安否確認を！**

学校⇒生徒： gmail・一斉送信メール  
臨時WEB・電話・避難所訪問  
生徒⇒学校： gmail・電話

- \*学校のWEBを臨時WEBに更新  
携帯電話でも閲覧できるシンプルな構成
- \*一斉配信メールの登録を呼びかけ
- \*メール配信会社へリンク，簡単に登録

情報の信憑性を保つために安否確認以降は  
メールの転送をしないように呼びかけた

**安否確認の方法**

以下のようにメールを打って、送信してください。

- 1) 氏名 ※忘れないで
- 2) 年組番
- 3) 現在どこにいるか
  - ・自宅
  - ・親類の家(住所)
  - ・避難所(〇〇小学校, ◇◇公民館など)
- 4) 自宅以外にいる場合は, 連絡のつく電話番号
- 5) 家族の安否
- 6) 自宅が被災している場合の被災状況
- 7) 安否確認ができている友人(氏名とクラス)

このメールをメールアドレスを知っている工大高の友人に転送してください。

## 安否確認メールの内容

- \*教育の場を創る
- \*生徒をバラバラにしない
- \*学校は教育を提供することが使命

- ①生徒・教職員が全員無事だった
- ②校舎の応急的復旧⇔鹿島建設が工事に入っていた  
1号館はほとんど無傷 2号館も使用可能までに復旧  
本館は1階の管理機能のみ使用
- ③特進(3クラス)は大学キャンパス⇔大学の協力
- ④電気・水道の復旧(ガスはなくても何とかなる)
- ⑤ある程度の交通機関の復旧(バス中心)
- ⑥本校が避難所にならなかった⇔復旧に集中
- ⑦全教職員・生徒が一致団結

## 学校の早期再開を目指して



4月7日 始業式  
入学式 実現



\*始業式・入学式を終えたその日の深夜  
23:32 M7.1 の大余震

\*JR完全ストップ

\*応急措置のモルタル類がはがれ落ちる  
学校を続けてよいか不安が広がる

\*2日間臨時休校

\*12日(火)から 9時始業で開校  
毎朝30分の打ち合わせ⇒開校後も継続

## 4・7 大余震

## \* 公立の合格発表の遅れ

予定 3月15日(火) ⇒ 延期 3月23日(水)

## \* 私立入学二次手続も遅れる

一般入試二次手続 3月17日(木) ⇒ 3月28日(月)  
一般入試日 2月1日(火) or 3日(木) 震災前に修了  
合格発表 2月4日(金) ~ 7日(月) 震災前に修了  
二次入試二次手続 3月22日(火) ⇒ 3月28日(月)  
二次入試日 3月18日(金) ⇒ 3月25日(金)

## \* 公立高校二次入試 4月5日(火)

# 入学手続きへの影響

私学は独立した経営母体

県教委のような指導的組織を持たない ⇒ 組織的に動けない

県総務部私学文書課も指揮命令系統になりにくい

状況に合わせて独自性を発揮し小回りは効く

⇒ バラバラで全体としては効果的な動きとれにくい

外へ向かった要求をしにくい

日本私立中学高等学校連合会 &

宮城県私中高連松良会長 が頑張ってください。

震災後初の校長会は4月26日

# 私学の対応の難しさ

## 正常性バイアス 受他行動 同調バイアス

- カウンセラー・養護教諭の積極的なサポート  
予防学的なアプローチ ポスター・壁新聞  
ニュースレターの定期発行・
- 外部相談機関との連携 相談・研修会
- 定期的な呼びかけ・面談
- 前期 相談延べ件数 昨年1000件 ⇒ 今年600件

## メンタルケア





**復興の調べ力強く**

全沢JAZZ STREET

工大高 吹奏楽部

尾山神社 震災乗り越え 被災学生ら熱演

**3.11 大震災**

**被災夫婦DV増加**

**職人も資材も不足**

**被災家屋修理進まず**

**長引く深刻さ**

- ◆行政からの支援（授業料・校舎復旧・避難所対応）
- ◆日私中高連からの支援（ボランティア基金等）
- ◆外国からの支援（特に台湾）
- ◆教科書・文具の支給
- ◆PTA・同窓会からの支援
- ◆職員の体制 全員が寄付金
- ◆求人・採用の協力
  - 内定率のアップ（11月24現在74.4%⇔昨年1.9%）
- ◆法人の取り組み
  - 次年度以降 ⇒ 法人の負担増
- ◆持家は良いが、借家への対応

**支援の輪と弱点**

**3.11 大震災**

**学びや6割の子戻らず**

南相馬・原町 小中5校再開

**除染も不安根強く**

学期途中 転校に難色

学校も  
コミュニーも  
戻れない

➤街や田や畑

⇒瓦礫が撤去⇒ 更地もしくは草原

⇒現在は何もない⇒ 名残は瓦礫の山

➤仙台市街地の建物

⇒震災の傷はほとんど見えない

➤宮城県沖地震（33年前）にはビル倒壊

6月12日17時14分M7.4 最大震度5

➤海岸沿い ⇒ 海がこんなに近いとは！

崩壊が見えにくくなる

平成25年度 仙台城南高等学校



10月20日 創立50周年記念式典

連載④

私立高校の

果たす役割

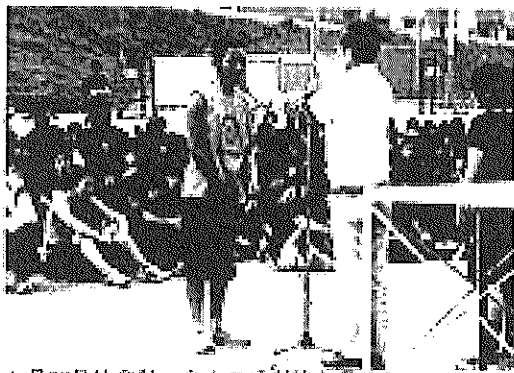
東北工業大学高等学校校長 久力 誠

です。また、同じく3年生の副会長は閉会の挨拶でこう言しました。「本校は3月7日、30日もの間臨時で閉校しました。その意味と重きを十分に知りたく、それに答えてくれる生徒、先生方にならなくてはなりません」

校長として生徒の言葉が腹に染み入りました。あの日本体育の講堂に閉校したときは、翌日から他の桜葉里同様、休日返上で施設設備の応急手当、器具室・事務室機能の確保に取り組みしました。

5月10日に行われた4月期総会、閉年であればゴールデンウィークの生活を引継ぎつつも、物足りなくさわつた雰囲気になるのですが、今年同様でした。

「学校は今さまざまな改革に取り組んでいます。私たちの活動ははその姿を外に伝える役割もある」とは、3年生のポランテイク委員長の言葉



5月29日体育祭。女子の詩が詩を演じた

その日の夜、大きな森の森に見舞われ、5日間隔の身体強化にむかひました。5月29日、始末時間を身時に設定し、通常の活動を開始しました。昨年から方々を人だてきた朝の静寂、静寂の夜明けが全く違いました。5月31日から行われた、学祭の準備、公開となる秋祭の準備、会は、震災後初めて迎える者として、これを復興

早期再開を實現し  
人材の育成を推進し

閉校した原、教室はある程度確保できた。特選3ヶ所を東北工業大学に移すことを前提に、3月16日に新設の長官室を含む3棟の校舎を開放していただきました。

その7月、県内の中・高で開校式、入学式を準備中の中で「サウナスター」はサウナスターを閉校することが使命であるとして、学校は教育を提供することを義務と見なすことと決意を固めた

た用事が、何となくにも感じました。体育館に集まった生徒たちの真剣な姿と、朝にそよ風が吹きたちの思いを届けた。一歩ずつ歩むを共に合おう、という言葉になりました。



久力 誠(まこと) 東北工業大学高等学校校長、元東北工業大学校長、東北工業大学副校長、東北工業大学教務主任、東北工業大学教務主任、東北工業大学教務主任

の第一目標に準備してきたことです。参加した生徒の別から、森の中で成長して来たことがわかりました。

「サウナスター」に行われたPTA総会、一歩を踏み出した。何をすべきなのか自分自身から分からないで、現在も分からない。そんな時、サウナスターが臨時に学校に行っている。何がよりの支えでした。ある関係者が思いの一端を強く吐露してくれました。